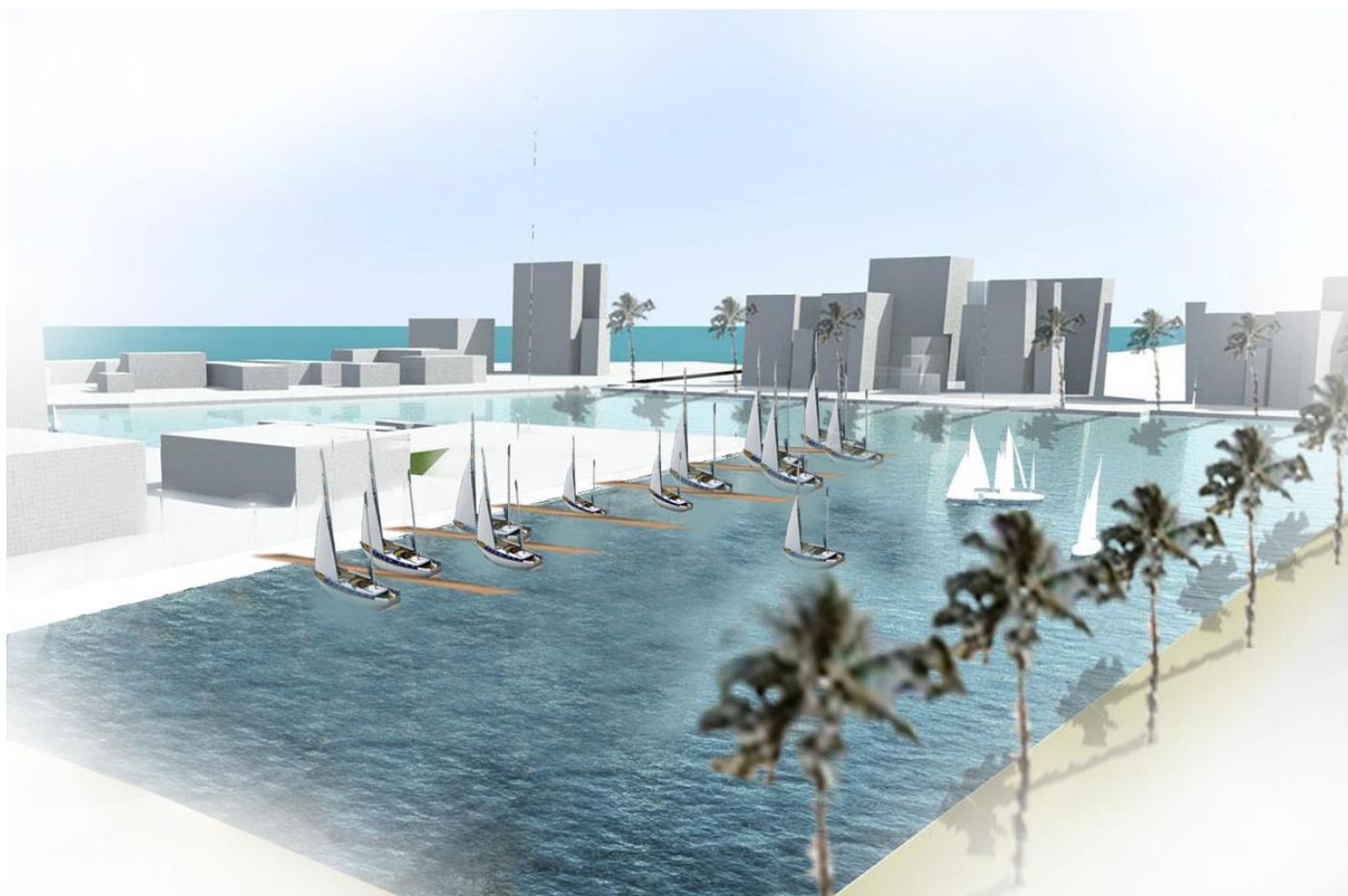


みなと再生プロジェクト

「いまばり海の駅」未来の模索



☆「いまばり海の駅」の未来の模索☆

《「交通」の港から「交流」のみなとへ》のコンセプトで進めているみなと再生プロジェクトにおいて、海からの交流拠点となるのが『いまばり海の駅』です。

平成 24 年度に《いまばり海の駅の事業化を目指して》の学生ワークショップを開催し、浮き彫りになった視点は 1) 海の駅にほしい基本機能 2) 交流をうむ仕組み (しかけ) 3) 海からの来場者のための仕組み (しかけ) 4) 海の駅で展開可能な事業でした。

平成 24 年度の視点を受け、より具体的な事業提案として①具体性のあるハード整備②ヨットマンに来ていただける情報の整備の 2 点に集中し提案することとしました。

みなと部会の提案する“しまなみ浪漫航路“

海の駅へひとを呼ぶということは、“今治港に船を呼ぶ”ということです。ヨットマンの航海を簡単で安全なものにする必要があります。そのために必要な事業計画として、以下の三点を提案致します。

1. スマートフォンで安全航海

パーソナル情報端末の発展により、沿岸であれば、スマホひとつで安全航海ができる時代が到来しました。直感的でわかりやすく、面倒な計算も不要な『航海アプリ』の普及を推進します。

2. マリンガイドブックの発行 (簡易海図として利用できる)

欧米で一般的な、観光案内と簡易海図がひとつになったパーフェクトガイドを発行します。

海では航海ガイドとして、陸では観光ガイドとして 1 冊は欲しくなるガイドブックを目指します。

3. 海の駅に『旗旒信号所』を設置する

海の駅が目立つ場所に旗竿を立てて、国際信号旗による信号を行います。

ヨットと商船の秩序を守り、陸と海のどちらからも見える視覚的シンボルになります。

この三点を、具体的事業として推進します。



■ 内容

- ・ 日 時： 8月23日(金)～25日(日) 2泊3日
- ・ 場 所： 愛媛県今治市 港湾ビル
- ・ 主 催： 今治中心市街地再生協議会 みなと部会
- ・ 協 力： 今治ヨット倶楽部
- ・ 講 師： Studio-L 神庭 慎次

■ テーマ

1) しまなみ浪漫航路の観光情報調査

『海』目線とは何か？を島々に点在する施設を回りキーワードを抽出

- 伯方ふるさと歴史公園（伯方）
- 尾道海の駅（尾道）
- 水軍博物館（宮窪）

2) 海の駅のハード運営を考える

ヨット所有者・関係者の方に集ってもらい、実現可能な、海の駅のハード・運営について話し合いを行う。

■ スケジュール

< 1日目 >

- 10:00-10:30 開会式 オリエンテーション
- 10:30-17:30 調査（伯方・尾道・宮窪）
- 17:20-18:20 ワーク1 意見交換・調査方針決定
- 18:30 懇親会

< 2日目 >

- 10:00-12:00 昨日の調査まとめ
- 13:00-16:00 海の駅ハードについて話し合い
- 16:00-19:00 ワーク2

< 3日目 >

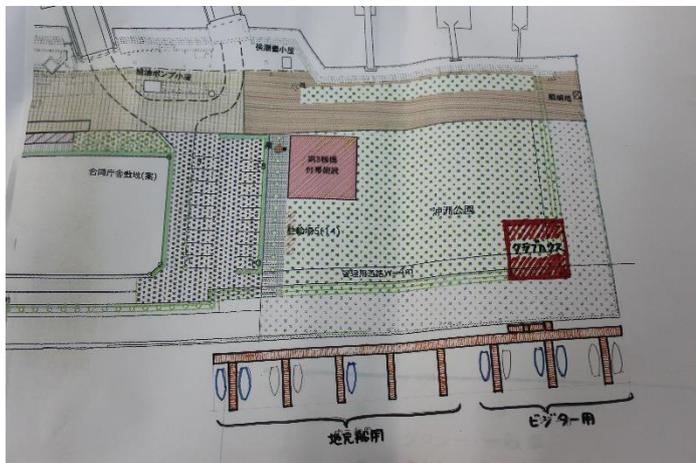
- 10:00-16:00 案の作成・再度調査
- 16:00-17:00 発表
- 17:00-17:30 閉会式

■ 参加者

- | | |
|-------|--------------------|
| 阿部美佐子 | 松山大学人文学部社会学科3年生 |
| 白石 雄大 | 信州大学/修士2年 |
| 菅 直行 | 千葉大学工学部建築学科4年生 |
| 林 翔太 | 河原学園 インテリア・建築デザイン科 |
| 宇高 雅敏 | ヨット所有者 |
| 森 賢一郎 | ヨット所有者 |



★作成した案



「いまばり海の駅」を内港に

＝現状の問題＝

- ・電気の供給設備がない。
- ・波が悪い。
- ・予約内容を優先し、緊急時の変更が不可
- *直島は「アート島の島」を売りにしているが、ヨットに関しては閉鎖的。

＝方向性＝

- ヨットハーバーと海の駅が共存
(地元の船 10 艇、ビジター 6 艇停泊できる)
- 水・電気・油の補給ができ、シャワー・トイレがある。
- クラブハウスの併設。レストラン等も充実。
- レンタサイクル・地域情報インフォメーション
- 今の海の駅は「波が悪い」⇒内港がベスト

＝効果＝

- ヨットが停泊している景観は人を引き付ける
(カップルが水際を歩きだす。)
- 停泊しているヨット自体がにぎわいのコンテンツ
(沖州広場と一体化した利用が可能)
- 海の駅に一番必要なコンテンツは“おもてなし”
- しまなみ海道の航路は世界的に有名

＝運営＝

- ・ハーバースターを置き、全体の管理運営を市民団体に委託する。
(基本的にボランティアでルール等も創る。)
- ・地元の利用者からも停船料を徴収する。
- ・地元の利用者とビジターが交流できるクラブハウスとする。
- ・受け入れの充実が一番の売り。
クラブハウスの管理と併せて、レンタサイクルの管理運営、観光情報を発信する。

実際にヨットマンの方と接してみて・・・

瀬戸内国際ヨットラリー2013 9月30日(月) 宮浦港



海外から4カ国(アメリカ・イギリス・ニュージーランド・オーストラリア)

24名を含む50名あまりの方がヨットラリーを実施。

10艇の船が宮浦の海の駅に到着しました。



○大きな大会だが、地域の人には知らない。歓迎感なし。

○到着して参加者はまずお風呂

○海外から来た方と一緒に大山祇神社まで行ったが、宝物館(入館料1000円)には入らなかった
リタイアして家も売って船で生活している人もいる。

事前に情報を与えて『みたい』という気持ちに持っていく必要がある

○反応する所は様々。ゆったりとしたスケジュールが必要。

いっせいに到着するわけでないので、時間差は必要。

○海外の人がすべて観光したわけでない。

大げさなパーティーは必要ないかも。子どもたちが受け入れするだけで独自性がでるかも。

○ビール・ワイン・食材を探していた。(簡単な所で、まずコンビニは?だった)

なるべく安くていいものの情報をどうですか?

